

北海道山莊建設決議

会館建設へ第一歩踏み出す

第六分科委員は五月四日午後六時から八時で、五月四日午前八時から正午で、友愛館に於ておこなわれ、

勢について、この項目については本会現状分析あり、今までの大会状況を、この項が長年の一瞥も明かした。簡単な

「お題」、青年運動をすすめる友愛の必要を、友愛の必要をする事に努し、各組織が中心となつて普及を急務とする事、

次頁本会方針として、多

和四十五年運動方針について、第五号委員である館長が具体化の第一として、第7号議案大宣言についての三議題について、委員長には随時学生部と板東圭吾君と移った。

の閉じに達した流れがあか
年とどう連ねる、貧富の量的拡大をどうするめてゆめか、万端世界青少年との関係について対象としてゆく等という意図

交換がなされた。
昨年度の文化演会は真に青年
の爲の企画として芳明な注目
を獲、而して各々が、自分の
生きたい、投函を届けたいと

まで地方青年会館から来たといふ最の活動家等と和んだスナッとした。議に先立ち議の順序を列替へ、第五号議題、第七号議題、第二号議題の順におこなふ地方で活動する者として、必ず最初近き障害があるが、本会の発生時から思いを起し、本大会スローガンにある如く、初を忘れず友愛尊重生命を旨とした。

第二号通船報知に於て、五月五度運動
の参詣については、時間上経過して
参加者かなり番集の基本
となる事であり、燃心な謝辭
がなれた。本議において、本
地域の蒙受して過つぬ程々無消云
々の事を説明された。その後、
統一ボクサーにて時性を取り戻し
統一ボクサーにて是を蒙受、政界問
題に対しても万葉。財政風、
運分給金は、五百三百八十八
圓七分、四月の午後四時より十時
十分の時間帯分の計、開港間
に置り山庄、ひらねの間の

[illegible]

本部長委員は、長田正太郎事務局長、佐々木恵子（中央教育指導部）、田中伸子（総理部）、永田清成（情報宣伝部長）の4名で構成された。

「第1分
人（体育部長）と幹事・満場一致で
選出、委員より書記に岸山富
郎君を指名し、議事に入った。
第二号議案「昭和四十五年度

事業計画について

1、友愛及び活動について
友愛の組織そのものを活動の中心とする。その組織拡充の問題が解決され、学習活動や研修会等の進められ、また、友愛の活動が、



のには来るに、幾方、さういふ
かへをするところだと思われた。ま
た理論的には、さう、リウレ
ーシンを愛取入れた催しものを
するようになった。



第1分科委員会

全国五十力所で講演会

充実した事業体制を施く

た事を八ヶ岳恒住は、本会には更に講演回数を増加し、アングラ等をも実況させる年の社への参加の進めようと、青丘の自覚を促し、青年の自主を高揚させ、また、組織活動への影響力をもせ、開く。

会員の数的拡大については、レクリエーション活動の活性化、本部役の会費獲得の制度化により、本誌をもつて及愛媛県の大きき礎とせるを期とす。その為、情報活動、組織活動、各種事業との統合的な考えを、会費獲得へ努力とす。

万国世界青年の年についてについては、本会が施設開業しており、その推進の中心役割を果たしており、その意義を充分認識すること、本年がその発展の年であるので、万全の対策を立て、万博対応を期す。

第五号機関、友愛館建設活動の具体化については、本会でも会員の一番関心事項であり、活発な意見が交わらるべく、この中北八ヶ岳青年の年の施設、友愛運動のシンボル、スポーツセンター、結婚式場、宿泊施設等々を具現化しての希望が山出された。本誌議題について、友愛館建設構想委員会によってその具現化を図るとして、第七号機関、大急ぎ言においては大大会各項目もそれなりの取り上げ(別冊)一部の修正によって承認した。

十カ所で講演会
突した事業体制を施く

2、学習活動については、中央部の普及活動を押し進め、二十回大会までに会員の基礎を固めさせる。

3、学童強化とは、理論的な事だけを教えるのではなく、生活の場から学童強化を推進する。

4、第二山等の神祕奉仕を強力進めては、どうかとの意見が出た。

5、国際交流活動については賛否両論が出たが、派遣の意義の必要を生き、活動の中心とする。今年

かとの質問に対して、リクレシェン¹⁾等を混じえたり、社会奉仕を行ったり、個人からリーダーへと自らの進歩を求めさせ、指導者の養成に努めた。又、各

6、情宣活動についてマスコミに

への働きかけは、TV局のバックアップを受けられなかったの實情に對し、各種事業を開催して、呼びかけなければ無理であるとの説明

組織の

事とし、本部の多岐による独自の開催を要望した。

講演会のあり方として、質疑応答を入れたら、講師のミューティングを入れたら極大スゴミに働ける。とあるが、

第三分科委員会では、月三日の夕方から四日の午前中の五時間半にわたって壇外ロッシンを開催された。

対託された議題は、第四号議題「昭和十五年組組織費四針について」で、昭和十五年組の二五万二千二百六十円（二五万二千二百六十）を、昭和十六年組の二五万二千二百六十円（二五万二千二百六十）とする。

4、社会福祉活動については、今度新しく設けられた項目で、各種バザーの弾力推進するよう要望された。また、一例として、

組織の開拓に全力を

情宜活動で有機的活動

があった。なお、事業推進の場合
 胸章、バッヂ等を着用して印を
 強くしたらよいとの説明もあ
 った。
 各キャンペーン方々、カレ
 ザ作感のやり方、作成につ
 の質問に対して、地域の商店等
 の応募求めを行なはたいと
 よし、カレザ作成の件は、
 予算の関係、無理であり、独
 の形で進めて欲しい旨説明、ア
 ンケート調査にはどうかとの問
 に、各種催しに、参加時、意
 調査などもこの説明があ
 った。
 敬告助成について、まう、
 以上、第2分科委員会



利用して、友達の存在知らせ
 事が必要があった。
 続いて徳戸の講義案、昭和
 十五年予について、
 歳入の部で、入金の上げ
 ついていては、かかの質問
 あり、今では、かかを、か
 どの説明。歳入の部では、新
 く設置された、リクレ・シ
 活動費がな過ぎるもの、か
 購買会、研修会の補填、ま
 っているの事、又、情活動
 ついての予算が、か、か
 れば、事活動中に、幸、網羅
 以上、第2分科委員会

第2分科委員会

の隣國に對し、政黨の団体には加入してないし、一党一派に偏しない方針を貫ぬいてゐる。尚、情實について、商業ベース等大いに果、満腹、致をもつて承認され

開拓に全力を
情宣活動で有機的活動

本部からは眞鍮祥太郎、中村博夢、星健夫、越川龍、辻谷静弘、渡部文雄の各常任幹事を担担した。委員会はまず出席の自紹介がなされたあと審議に入った。

第四回問題に、いって、渋谷区
雄雄組織部長より提議理由の補足説
明がなされた。本年度の組織活動
の目標は近い将来、地方ブロック
大会の開催を目指し、冬ブロック
の要旨が説明された。議題審議



第2分科委員会

[illegible]

分科委員会



第3分



第3分科委員会



ラジアルのなかのラジアル！

ーイレブンー

ラジアル-11

スタート・ストップ・コーナリングは思いのまま！ 活動派向きのタイヤです

 株式
 会社
 中
 嶋
 組
 取締役社長 中嶋 信行
 東京都田舎草刈町西の五九
 電話 六〇二一三・四番